

～地域の子どもは地域で育てる～

府中町放課後子ども教室 【府中町】

教室の概要

○ 教室の目的

子どもたちが地域社会で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するため、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）づくりを推進する。このため、「府中町放課後子ども教室」を創設し、町内の小学校区において、放課後や週末等に小学校施設や公民館施設等を活用し、地域の方々の参画を得て、子どもたちと共に勉強やスポーツ・文化活動、交流活動等の取組を実施する。

○ 教室開設の経緯

コーディネーターは、他市町で学童保育指導員等としての経験が豊富な人、地域の公民館や学校PTAで活動している人を適任と考え選任した。また、ボランティア等には、広報誌等で募集して、教員・保育士・PTA役員経験者や地域行事に積極的に参加して、地域で子どもを育てようという方を登録した。

【開始年度】平成19年度	【実施校区】町内の小学校区（5校）
【開催場所】各小学校の余裕教室及び公民館施設	【コーディネーター人数】2人 【安全管理員・学習アドバイザー人数】45人 【ボランティア人数】10人
【開催日・開催時間】水・土曜日	
【年間開催日数】46日	
【参加学年・平均参加人数】 各教室小学校1～6年生 16人	

活動内容

○ 特徴的な活動プログラム（地域の方を講師とした地域との絆を深める活動）

【目的】①学校・地域が一体となり、地域が児童を育てることで、地域との絆を強める。

②児童が地域の人と触れ合う機会や多様な経験をする機会を充実させることにより、児童の生きる力を育成する。

事例①：百人一首

小学校5校で、一年間を通じて百人一首に取り組む。元教員の地域の方が講師として、指導している。年度末に一年間の成果発表として、小学校5校合同のカルタ大会及び暗唱等を行う。（発表の場を持つことによって、目標を持ち、達成する喜びを感じることができる。）

～百人一首の一日のスケジュール～

一日一首を目標に、手作りの百人一首ドリルを書写し、覚える。

あ	こ	な	も	お	百人一首⑤ 名前 月 日 曜日
き	え	く	み	く	
は	さ	し	ぢ	や	
か	き	か	ふ	ま	
な	と	の	み	に	
し	き	の	わ		
き	ぞ		け		

奥山に紅葉ふみわけ
鳴く鹿の
声きく時ぞ
秋は静しき



【書写・暗唱の手順】

- ・声を出してしっかり読む。
- ・手本のことばを見ながら横に書く。
- ・手本のことばをなぞって書く。
- ・習っている字は、ドリル下の手本を見ながら漢字で書く。
- ・書写が終わったら、覚えるまで声を出して読む。
- ・暗記できたら、ボランティアに聞いてもらう。

◆ 「五色百人一首」遊び

「五色百人一首」は、小倉百人一首をその難しさに応じて20枚ずつ5色に色分けしてある。札の数が20枚と少ないため、短い時間で楽しめ、裏には、上の句が書いてあり、試合中にも見ることができ、早く和歌を覚えることができる。放課後子ども教室独自のルールも決めて1対1の競技者で行う。読み手を児童が担当することもある。時には、小倉百人一首を散らして数人で遊んだり、誰でもできる坊主めくり等をしたりして、楽しんでいる。

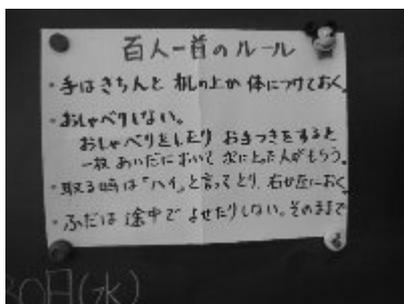
◆ 小学校5校合同カルタ大会

放課後子ども教室の「百人一首」の取り組みの成果発表の場として児童及び家族の参加で行う。

- ・カルタとり（「五色百人一首」のオレンジの札とピンクの札を使用）
※独自のルールを作り、何試合か行い、取った札の合計枚数で競う。
- ・暗唱（各校で一つずつ好きな歌を選び、暗唱する。）
- ・家族も参加することのできる、坊主めくりコーナーもある。



声を出して読む



百人一首のルール



試合前の暗記



真剣な様子



札を取ったよ！



児童が読み手

事例②：みくまりの森サポート隊による工作教室

府中町のみくまり峡の間伐材や町内でとれた木の実、町花つばきの実等を利用しての工作教室を町内小学校5校で実施した。作品見本から、ヒントを得て色々な材料を使い、アイデア溢れる素晴らしい作品が完成した。のこぎりやキリを使用するのが初めての子どもたちがほとんどで、使用方法をサポート隊の方に指導してもらった。子どもたちは、真剣な表情で取り組んでいた。サポート隊の方から府中町の自然の大切さについて教えてもらい、豊かな自然を感じることができた時間となった。

事例③：公民館定期活動団体によるダンス体験

公民館での学習成果を地域の児童に還元することを目的にし、町内5小学校でフォークダンス体験した。フォークダンス体験をとおして、日本や世界の文化に触れることができた。沖縄音楽の独特のリズムは、子どもたちの興味をひいたようだ。最初は恥ずかしがっていた子どもたちも楽しいリズムにのって踊る楽しさを味わった。

事例④：ウインターコンサート（府中町在住の双子の大学生によるマリンバコンサート）

放課後子ども教室の児童、留守家庭児童会の児童及びその家族を対象に、交流するという目的で実施した。多彩な音色を奏でるマリンバに聞き入っていた。演奏者の大学生は、府中町内の小中学校出身ということもあり、身近な存在に憧れて、マリンバを習いたいという子どももいた。クリスマス曲のメドレー演奏とサンタクロース出演で季節感を感じた。



工作教室の様子



オリジナリティ溢れる作品



世界のフォークダンス



沖縄の音楽に合わせてのダンス



サンタクロースからプレゼント



マリンバ演奏

運営上の工夫

- ボランティア研修会の開催
 - ・ ボランティアに百人一首指導の知識がないため、元教員で百人一首の指導の取り組み経験のある講師による指導で学習した。
 - ・ 百人一首ドリルや五色百人一首を児童が手作りすることで、より一層、児童が百人一首に親しみを持つことができた。

- 公民館活動との連携
 - ・ 地域の方々が、公民館で学習したことを活かして、放課後子ども教室のボランティアとして活動している。

- 放課後子ども教室と留守家庭児童会（放課後児童クラブ）との合同事業の実施
 - ・子どもたちが互いに知り合い、交流を深めること、また、教室のスタッフと児童会（クラブ）の指導員が、互いの活動等について知ることを目的として、コンサートなど、合同で事業を実施している。

- ボランティアの確保
 - ・公民館定期使用団体等の方々（将来的に放課後子ども教室に関わってもらいたい方）対象に、放課後子ども教室推進事業の周知を図るとともに、「『親の力』をまなびあう学習プログラム講座」を受講していただき、子どもとの接し方等について、学んでいただいている。

事業を実施して

【参加者の声】

（児童の声）

- ・毎日、おばあちゃんと百人一首で遊んでいるよ。
- ・難しかったけどのこぎり・きりが使えるようになった。木の実等でかわいい置物ができた。家に飾ります。椿の実を初めて知った。みくまり峡で自然を観察したい。

（保護者の声）

- ・学年があがって、百人一首を学習する時、放課後子ども教室でしたことを思い出して、この歌知っているという時がくる。良い経験をさせてもらった。
- ・放課後子ども教室で、色々な体験をさせてもらい感謝している。子どものうちに、沢山色々な事を体験することは、子どもの世界が広がり、生きる力をつけることだと思う。

（スタッフの声）

- ・子どもたちとの接し方に悩むこともあるが、子どもから元気をもっている。地域の子どもたちと触れ合えることに喜びがある。成長が楽しみ。

【成果と課題】

- ・5教室合同の教室を開催することで、子どもたちも、スタッフ・ボランティアも学校区を越えて交流することができている。ボランティアについては、担当外の教室へも支援に赴くなど、風通しの良い活動ができている。
- ・公民館で学習したことを、放課後子ども教室において子どもたちに教える機会、また、子どもたちとのふれ合い機会を設けていることで、高齢者の方々の生きがいにつながっている。
- ・多くの地域の方が放課後子ども教室に関わっており、スタッフの日程調整が難しい場合がある。
- ・百人一首については、教室により学習進度も違うので、ボランティア間の連携を図っていく必要がある。
- ・興味のない子どもが楽しく学ぶために、指導の工夫が必要である。
- ・放課後子ども教室と留守家庭児童会の連携事業については、連携の効果及び具体的な連携の方策について、引き続き検討していく。
- ・小学校1年生から小学6年生までが対象のため、下校時間に差があり、活動に一斉にとりかかることが難しい。活動の始め方に工夫が必要である。

